

第 29 回災害対策本部での知事の主な発言

1. 会議冒頭の発言

- 本日のこの会議には、後ほど、盛山文部科学大臣にご臨席いただく。会議終了後には、私から大臣に対し、学校施設の復旧や児童生徒の学びの保障のための支援はもとより、能登半島地震を震源とする地震の調査研究の早期実施なども要望する。
- 本県の災害対応業務を支援してもらうため、全国知事会に都道府県職員の応援派遣を要請していた。今般、第一弾として、8 県から 57 人が、明日以降、順次派遣されることが決定した。全国知事会の村井会長には心から感謝を申し上げたい。
- 被災事業者への支援については、1 日の発災直後から県庁に緊急相談窓口を設置し、相談対応にあたってきた。

本日中にも、政府により、「被災者の生活となりわい支援のためのパッケージ」が取りまとめられる。そこで、県においては、明日 26 日（金）午前 9 時から、事業者向けのコールセンターを開設するとともに、希望者には、地場産センターでの対面相談も実施することとしている。事業者の皆さまからの様々な相談にワンストップできめ細かく対応していく。

- 県水については、県土の南側から順次、点検・補修に取り組み、1 月 4 日には中能登町まで復旧している。

しかし、その北側は、送水管の被害が集中していたため、

七尾市への送水には2カ月以上要することが見込まれていた。

その後、鋭意点検を進めた結果、想定より被害が少ないことが判明し、順調に補修が進捗したことから、今月末までに、七尾市の藤橋供給点まで送水できる目処が立った。

これを受けて、七尾市が市内に水を流して、水道管の漏水調査や修繕を行いながら、通水エリアを順次拡大していくことになる。

県としても、残る能登島までの県水の早期復旧を目指し、全力で取り組んでいく。

- 応急仮設住宅については、これまで6市町において、計640戸を着工している。

今般、輪島市において、今月末までに、文化会館周辺駐車場、河原田小学校グラウンド、門前グラウンドゴルフ場、旧南志見小学校グラウンドで合わせて320戸程度追加着工する見通しとなった。

箇所別の戸数や着工日程などの詳細が決まり次第、別途、資料提供する。

- 義援金については、今月4日の受付開始以来、既に120億円を超えている。国内外の皆さまからの善意に対し、改めて、県民を代表して心から感謝を申し上げる。

これを被災者の皆さんにいち早くお届けするため、速やかに、配分委員会を開催し、被災市町との調整も加速させたい。

2. 会議最後の発言

- 本日とりまとめられる政府の支援パッケージについては、判明次第、中身をしっかりと確認し、国・市町・関係団体と連携のうえ、速やかに実行に移してください。
- 同時に、被災者・被災事業者の声にしっかりと耳を傾け、引き続き、国に対し、制度の創設・改正、規制緩和、補助率の拡大を求めるなど、従来の発想にとらわれない、きめ細かな支援に繋がってください。
- 昨日、小松市の1.5次避難所や加賀市の2次避難所をはじめ、孤立集落の被災者を丸ごと移送した集団避難所を視察した。私自身、被災者の皆さんから様々な困りごとを直接お聞きした。今後とも、こうした被災者の声を丁寧に聞き取り、きめ細かな支援をお願いしたい。
- 仮設住宅の着工が本格化してきた。数千個に及ぶ建設ニーズがある。引き続き、市町と連携し、調整・準備を加速してください。
- 明日は、輪島市と珠洲市の避難所などを中心に、詳しく現地の状況を確認する予定としている。これを今後の対策に繋げていきたい。